

プログラム・ノート

中村伸子

シェーンベルク(シュトイアーマン 編曲)：

『浄められた夜』作品4 (ピアノ三重奏用編曲)

アルノルト・シェーンベルク(1874～1951)の『浄められた夜』作品4は、シェーンベルクが無調あるいは十二音技法による作曲を始める前の1899年に作曲された。ドイツの詩人リヒャルト・デーメルが1896年に発表した詩に想を得て書かれ、森のなかの男女の描写(第1、3、5節)、別の男性の子を身籠った女性の告白(第2節)、女性を受け入れる男性の言葉(第4節)、という5つの節に沿って音楽が劇的に展開する。

本作は弦楽六重奏のために作曲され、ロゼ弦楽四重奏団を含む6人の音楽家によって1902年にウィーンで初演された。シェーンベルク自身がのちに弦楽合奏用にも編曲しているが、今回演奏されるのはエドゥアルト・シュトイアーマン(1892～1964)によって1932年に編曲されたピアノ三重奏用である。

コルンゴルト：2つのヴァイオリン、チェロ、ピアノ(左手)のための組曲 作品23

エーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルト(1897～1957)の『組曲』作品23は、第一次世界大戦で右手を失ったピアニスト、パウル・ヴィトゲンシュタイン(1887～1961、哲学者ルートヴィヒの兄)の委嘱により、1930年に作曲された。ヴィトゲンシュタインはすでにコルンゴルトに『左手のためのピアノ協奏曲』作品17を委嘱し、1924年に作曲者の指揮によりウィーンで初演して以来、この曲をヨーロッパ各地で演奏していた。

『組曲』は1930年、一部メンバーは異なるものの『浄められた夜』と同じロゼ弦楽四重奏団とヴィトゲンシュタインによってウィーンで初演され、彼の重要なレパートリーに加えられた。シェーンベルクやコルンゴルトと同様、ユダヤ系であったためアメリカへ逃れたヴィトゲンシュタインは、亡命先でもこの曲をたびたび演奏している。

力強い冒頭を飾る第1楽章「前奏曲とフーガ」に続く第2楽章は、エレガントな「ワルツ」。第3楽章「グロテスク」はその名にふさわしいスケルツォである。第4楽章「歌曲」はコルンゴルト自身の『3つの歌曲』作品22の第1曲と同じ旋律を用いており、その旋律をさらに転用しながら表情を次々と変える第5楽章「ロンド」によって、全曲が締めくくられる。